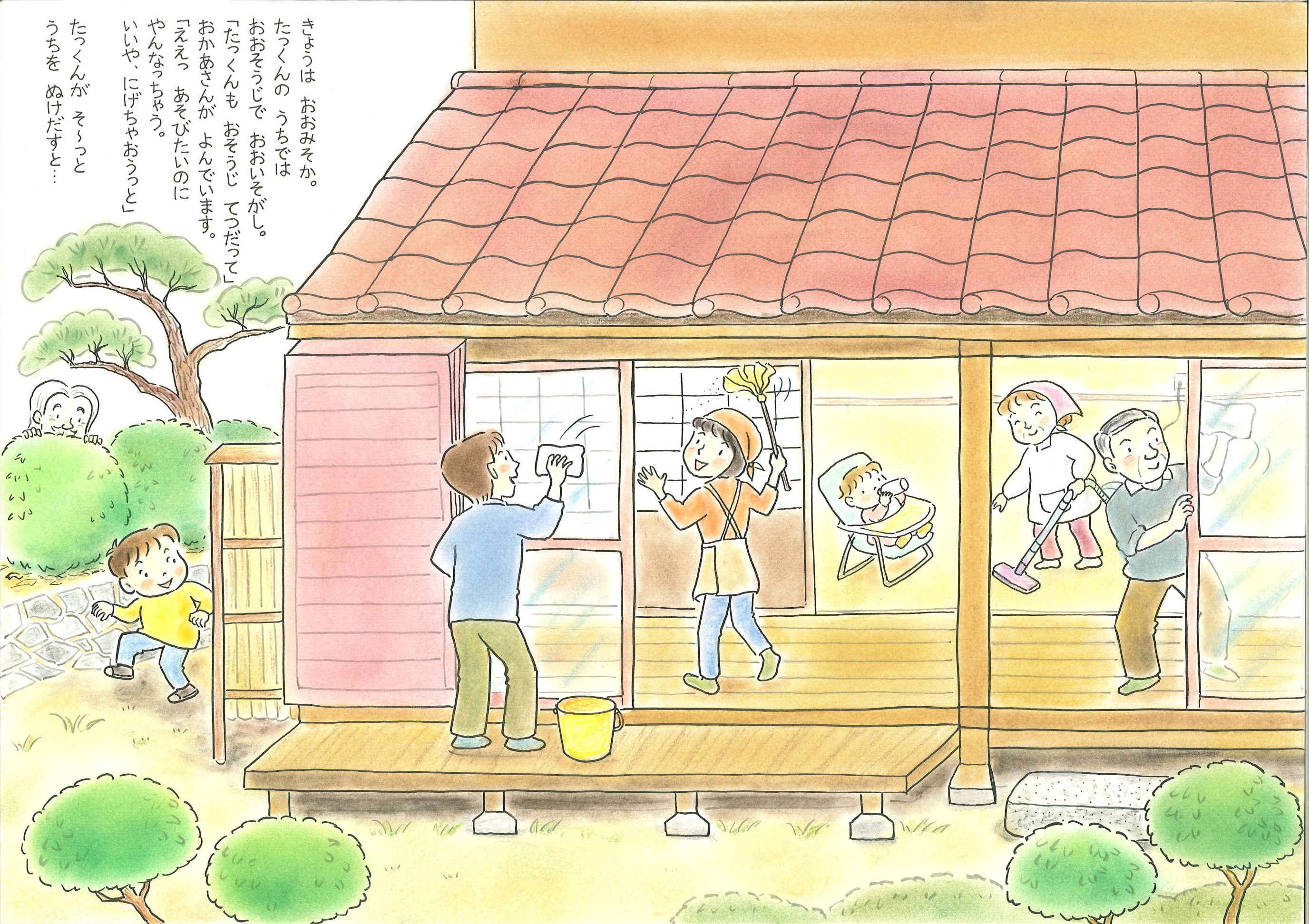


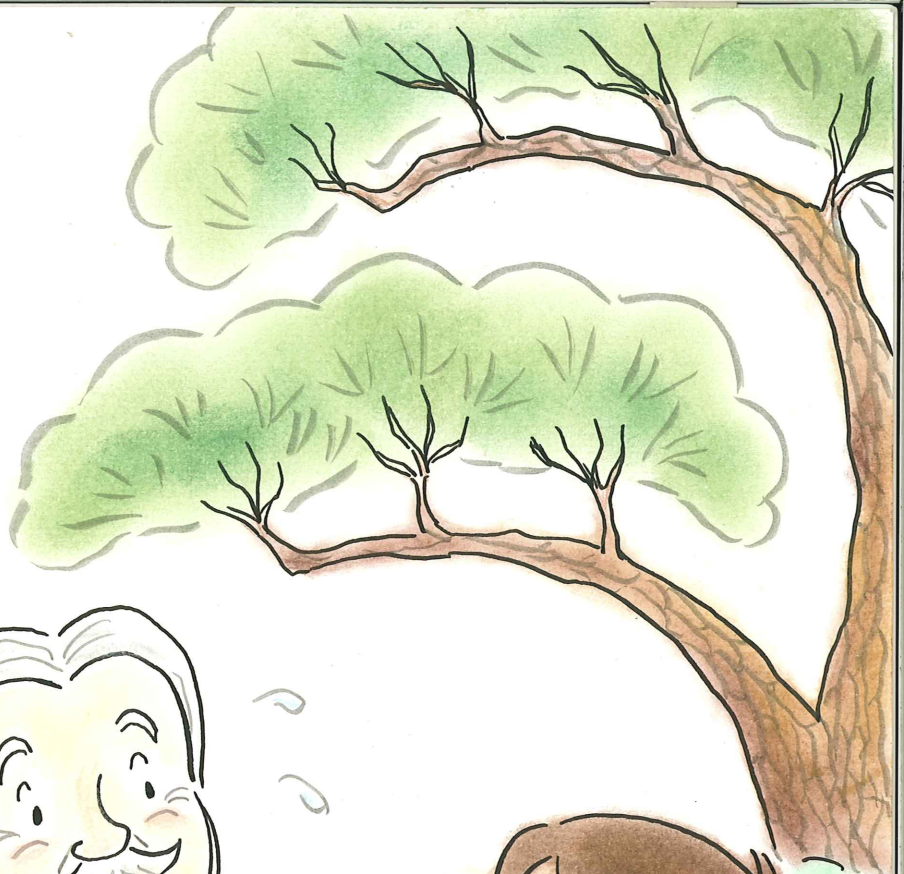
たっくんちの お正月



きょうは おおみそか。
たっくんのうちでは
おおそうじで おおいそがし。
「たっくんもおそうじでつだって
おかあさんが よんでいます。
「ええっ あそびたいのに
やんなっちゃう。」
「いいや、にげちゃおうっ」と
たっくんが そそっと
うちを ぬけだすと...

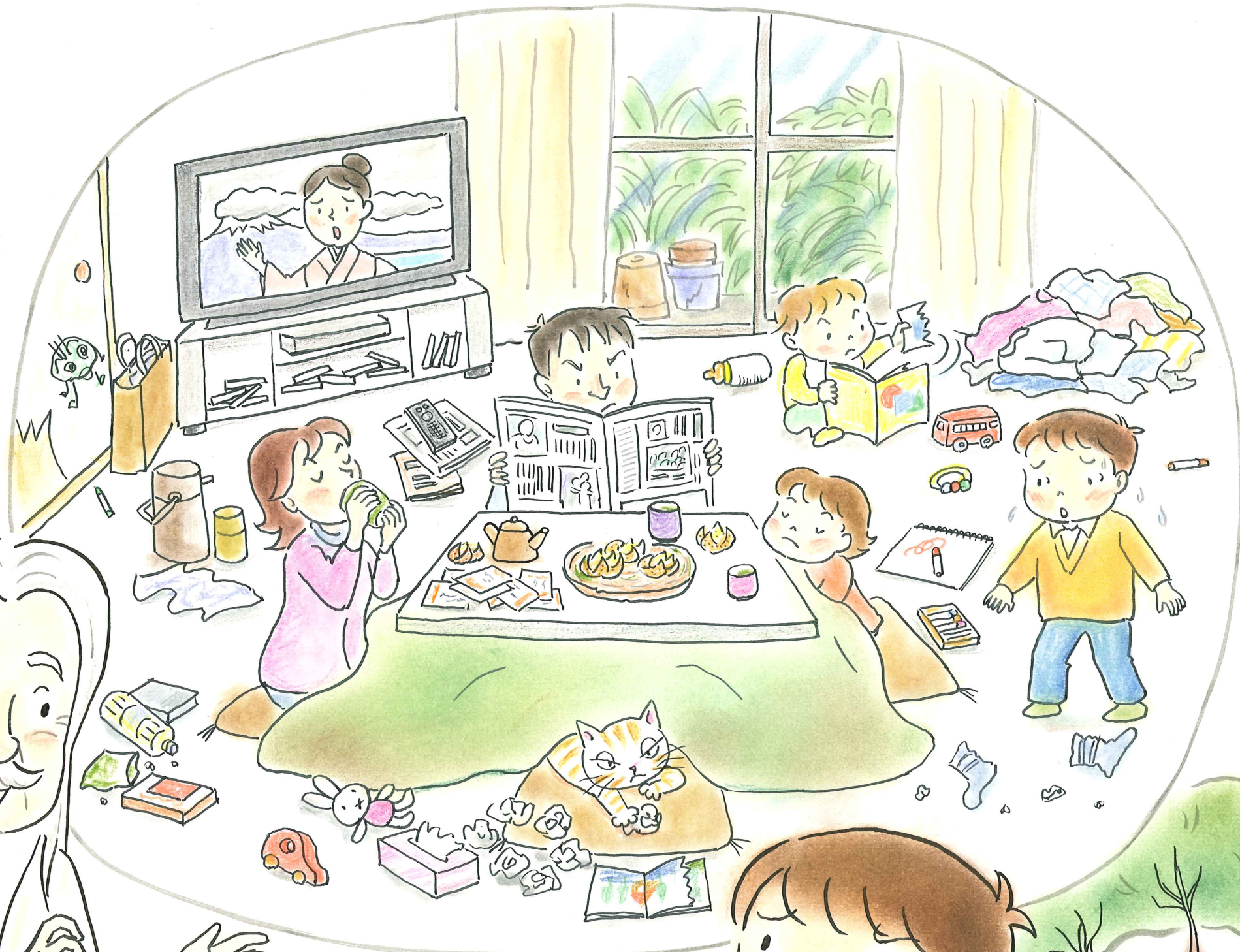


へんてこな おじいさんが いました。
「おじいさん、そこで なにしてんの？」
すると、おじいさんは
「おぬし、わしがみえるのか？」
とびっくり。



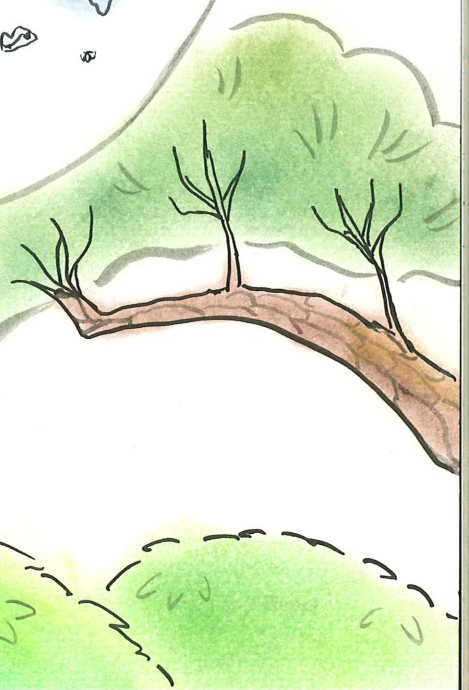
「えっ、みえるけど、どうして？ わかった、
おじいさん、かくれんぼしてるんでしょ」
「いや、まあ… そっじゃな。だが、
みつかってしまったのは しかたがない。
で、おぬしは なにしておる？」
「ぼく？ そうじが やだから にげるとい。
うちのじいちゃんは おしょうがつは
としがみさまを おむかえするんだから
きれいに そうじしろって いうんだよ。
でも、かみさまって みえないし、
きてくれるか わかんないのにさ、
そうじしなかったって いいとおもわない？」



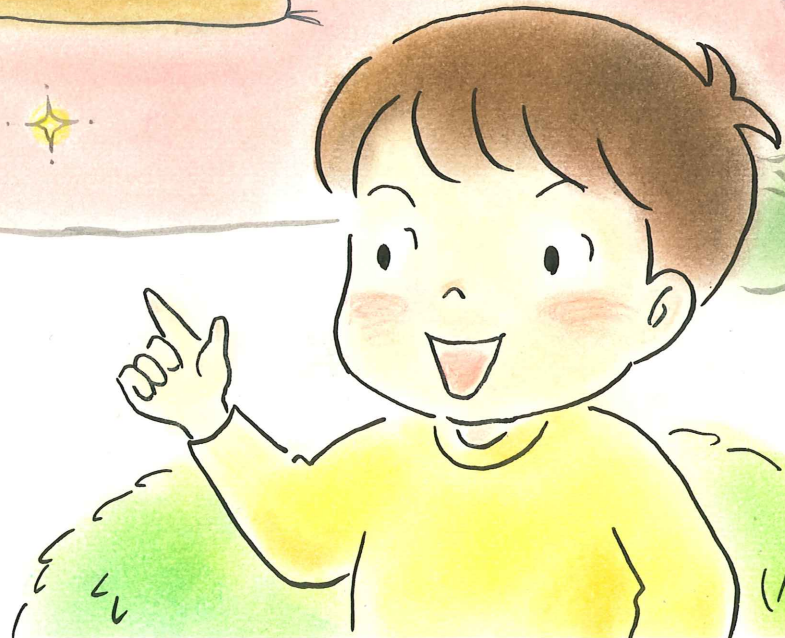


「なるほどな。だが、
たとえかみさまが くるかどうか
わからなくても、へやを
きれいにするのは きもちがよいぞ。
たとえば おしろうがつに
あそびに いったうちが
へやは ごちやごちや。
みんながふきげんで しらんぷり。
りょうりも だしてくれないとしたら
どうじゃっ？」

「そんなの やだ」



「では もし きれいなへやで
みんなが にこにこむかえてくれて、
おいしいりょうりも だしてくれたら
どうじゃ？ どっちがうれしい？
なかよくしたい？」
「そりゃ もちろん あとのほうだよ」
「そっじゃろう？ かみさまだつて
おぬしらにんげんと おんなじなんじゃ。
みえなくたって、きもちはわかるじゃろう？」



「そりゃ わかるけど…」
たっくんが いいかけると、
「たっくん、みつけた！」
なにをひとりでしゃべってるの？
さあ、ぞうきんがけてっだって
おかあさんが やってきました。
「えっ？ ひとりじゃないよ。だって…」
たっくんがふりかえると
おいさんは いつのまにか
いなくなっていました。





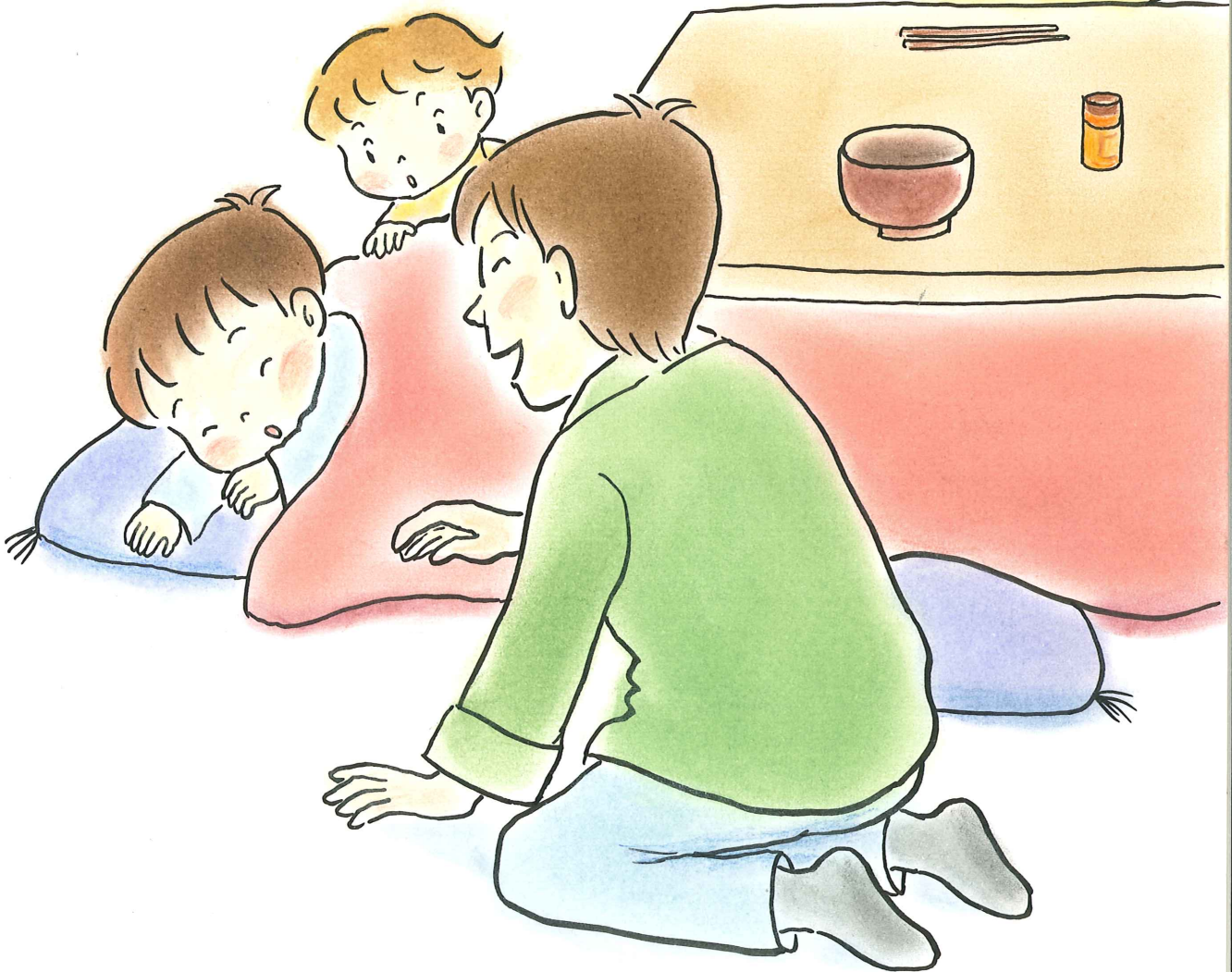
たつくんは はりきって
げんかんをはいたり、おふるばをみがいたり、
いろんなおてつだいをしました。

たつくんは しかたなく
ぞうきんがけを てつだいました。
でも、ぴかぴかになった
ろうかをみると なんだかいきぶん。
じいちゃんも にこにこ みています。

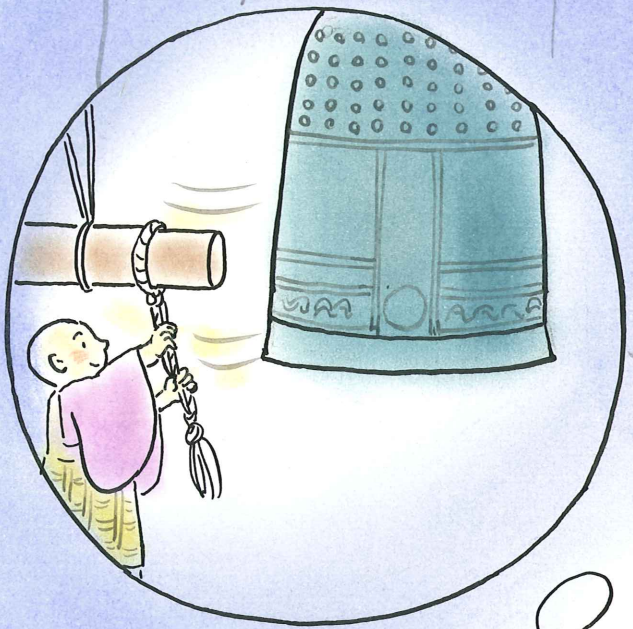


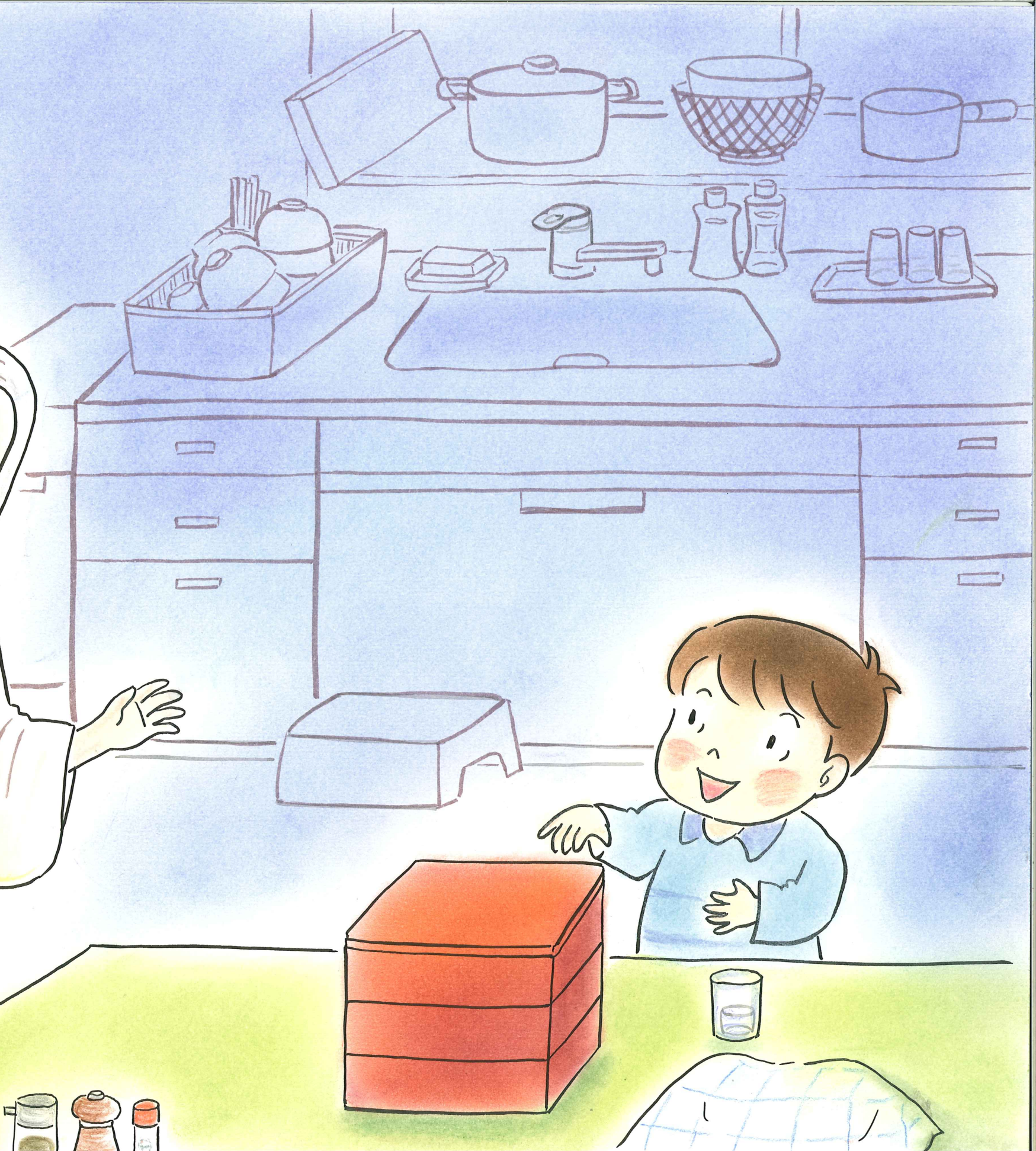


そのばん、とししそばをたべおわると
「あらう、たっくんたら もう
ねむってるわ」と おかあさん。
「きまつは よくがんばったからな」
おとうさんは たっくんを
そつとふとんにはこんでくれました。



まよなかのこと、
「ごーん、ごーん、ごーん...」
じよやのかねのなるおとで
たっくんは めをさしました。
「あれっ？ ぼく、いつのまに ねちったのかな。
なんか のどがかわいちゃった」
たっくんが みずをのみに行く...





だいたいごろに
ひるまあった おじいさんが
たっていました。

「あれっ？ おじいさんたら

「こんどは こいで なにしてんの？」

「おや、また おぬしか…。 いや ちよつとな

はらがすいたので、おじやましておる」

「ならんだ、おじやましておるって、

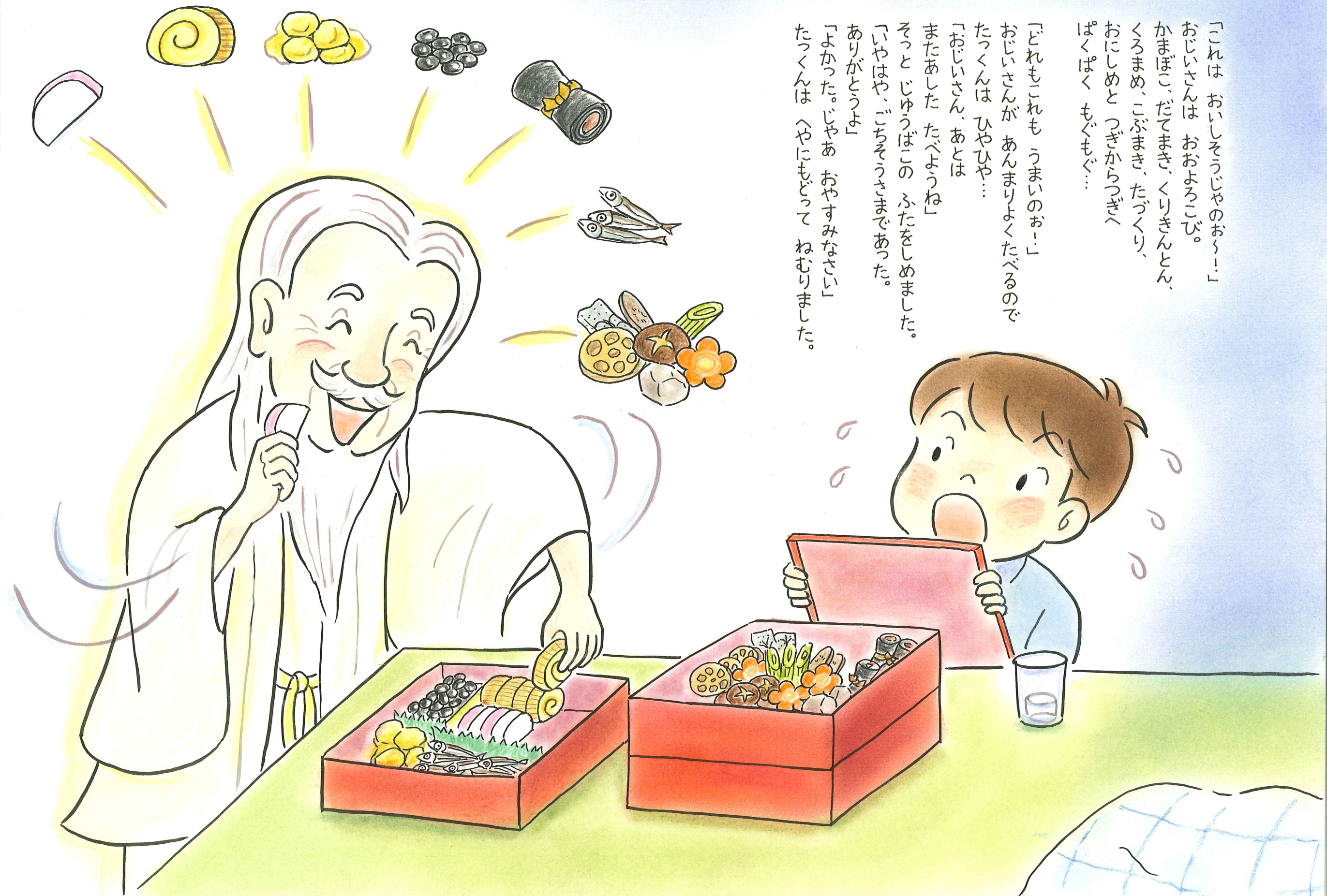
おじいさん、うちのおきやくさんだったの。

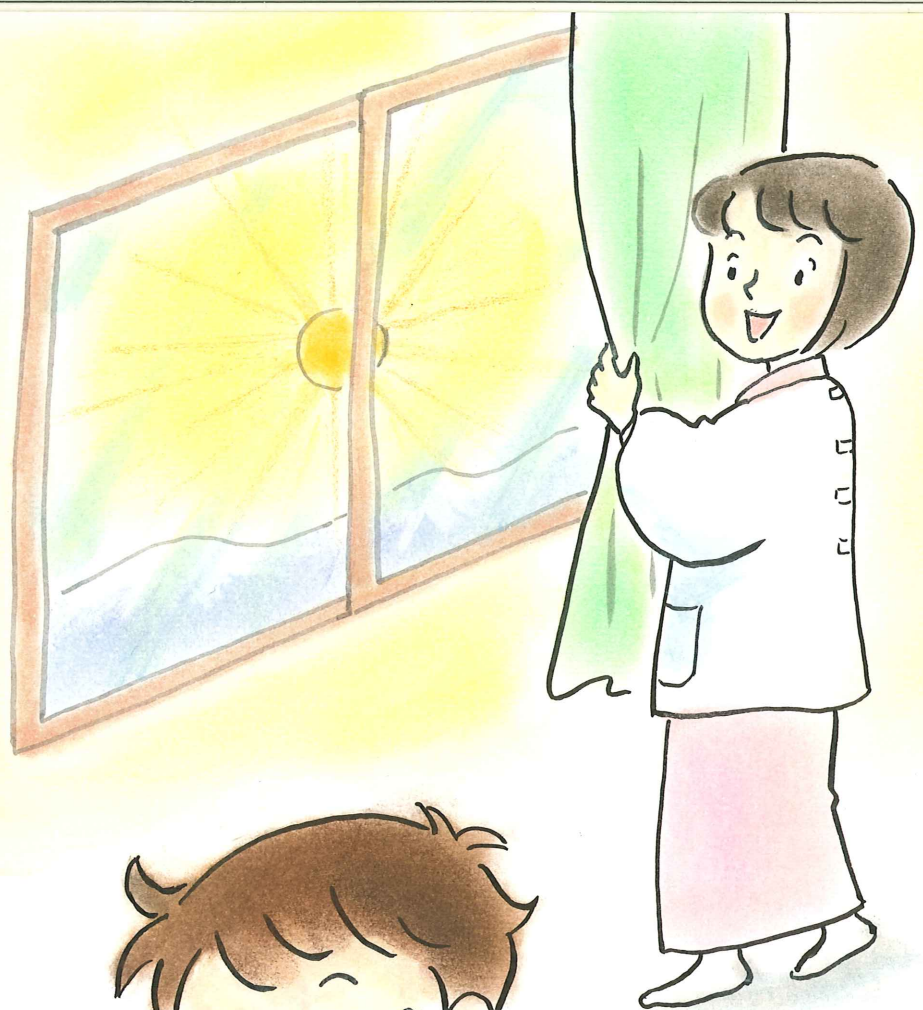
じゃあ、ちよつとおせちりょうりを たべてみる？

たっくんがじゅっぱいの ふたをあけると…

「これは おいしそうじゃのおー」
おじいさんは おおよろこび。
かまぼこ、だてまき、くりきんとん、
くろまめ、こぶまき、たづくり、
おにじめとつぎからつぎと
ぱくぱく もぐもぐ……

「どれもこれも うまいのおー」
おじいさんが あんまりよくたべるので
たっくんは ひやひや……
「おじいさん、あとは
まだあした たべようね」
そっとじゆうばこの ふたをしめました。
「いやはや、ちそうさまであつた。
ありがとっす」
「よかった。じゃあ おやすみなさい」
たっくんは へやにもどって ねむりました。





よがあけました。
「たっくん。」

「さあ、おきてー。」

「おかあさんがカーテンをあけたので
たっくんはねぼけまなごで、ききました。」

「ねえ、きのうとまりにきてた
おじいさん、もうおきてくるっ？」

「えっ、きのう？」

「うちにはだれもきてないけど。」

「…えっ、きてないってっ？」

「うそでしょっ！」

「たっくんはとびおきました。」

「じゃあ、よなかにおせちりょうりを
たべてたのは、いったいだれ？」

「あわてて、だいたいころいくと…」





おばあちゃんが
「へんねえ。じゅっぱい
ふえてる… なぜかしらっ
といいながら ふたをあけて
びっくり。
なかには えびやら
かにやら あわびやら
おいしそうな ごちそうが
ずっしりはいつていたのです。

たっくんも
おじいさんの たべたほうの
じゅっぱいを あけて びっくり。
だって、あれだけ たべたはずなのに
おせちりょうりは
ちっとも へっていなかったのです。

たっくんの はなしをきいた
じいちゃんはいいました。
「それは としがみさまに ちがいないよ。
としがみさまは
たっくんの してくれたことが
うれしかったんだなあ。
ことしは きつと いいとしになるぞ」
さてそれから
かぞくみなで おいわいです。
「あけまして おめでとー」
たっくんは
「としがみさまをおむかえする
おしまがつってきのつと
ぜんぜん ちがって みえるんだな。
まわりが ぜんぶ ぴっかぴかに
あたらしくなった みたいで
きぶんが いいや」
とおもいました。

